

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300281		
法人名	有限会社 いずみの里		
事業所名	グループホームなでしこ	ユニット名	A棟
所在地	宮城県栗原市一迫真坂字町東56		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 19 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様に安心・安全に生活して頂ける様に日頃より声掛けや見守りを心掛けている。施設内も広くゆっくりと過ごして頂ける様に設計されており、全室個室になっているので自宅同様に落ち着いて過ごせるように工夫しております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平屋建て2ユニットの「グループホームなでしこ」は、栗原市の中央部一迫に在り田園地帯にコンビニやドラッグストア等の一角に在る。職員は毎朝7項目のホーム理念を唱和し、配慮と思いやりのあるケアを目指し、優しい笑顔のある支援を心がけている。入居者全員のかかりつけ医の医院が隣接して、毎月の来訪健診や緊急時対応もあり、家族から安心の声がある。居室や廊下が広く車イスでもゆったり過ごしている。前回に「次のステップに向けて期待したい内容」の2項目についての取り組みはなかった。コロナ禍の今は、居室の窓越しに入居者の表情を見ながら家族は、話しかけ声も聞いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームなでしこ)「ユニット名 A棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念を作成職員全員が見える所に貼り、毎日期の申し送り終了後に全員にて唱和を行っている。また、全員に理念を記載したネームプレートを配布し常に理念の確認が行えるように実践している。	ホーム理念の7項目を掲げて、毎日職員で唱和を行っている。入居者に優しい笑顔でゆっくり話しかけることで安心感を持ってもらえるようにしている。振り返りは年始の1月の会議時に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、新型コロナの影響で参加出来ない状態が続いている。	オレンジカフェは以前のように同法人デイサービスと共同開催予定であるが、コロナの感染状況を見ている。地震時には避難場所として地域の方を受け入れる準備もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループ全体でオレンジカフェの開催、お茶っこ会の参加の計画はあったが、新型コロナの影響で実施出来ていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	R3・8月はコロナの影響があり、案内状を送付しましたが中止となり参加者の方々に書面を送付させて頂きました。R3・4月・11月、R4・1月は入居者状況や活動内容などを行いサービスに活かしております。	包括支援センター職員や区長、町内会会長、家族等をメンバーとしている。会議開催はないが書面でホームの様子や活動状況を報告したが、4回ほどにとどまった。	県のガイドラインの求めに応じて、運営推進会議のメンバーに働きかけ、年6回以上開催し、サービス向上に活かさせていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修に必要な資料をを頂いたり、必要な情報を提供して頂いたりしているが、更に連絡を密に取りながら協力関係を築けるよう取り組んでいきます。	市に運営推進会議について、メンバーの交代や書面状況提供等について相談した。包括支援センターの研修が少なくなり、内部研修を中心に行っているが相談等は、し易い状況にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング時に身体拘束について研修を行っている。3か月に1回の割合で「身体拘束に関する適正化委員会」を委員中心に開催し内容を各職員も閲覧・押印し確認している。	指針に基づいて新規入職者等の研修を毎月実施している。身体拘束未然防止に向けて、介護事例の「車椅子をテーブルに押し付けない」や「動かないで」の声掛け等をしていない「ミトン使用しない」等を確認している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング時に虐待について研修を行っている。虐待が実際に行われていない事を確認している。	虐待防止の研修を毎月行っている。急な立ち上がりや車椅子での急な移動は、大きな怪我に繋がるので特に注意している。入浴時に身体の状態(内出血等)を見逃さないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、定例ミーティング時に研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご契約者や同席のご家族に契約書及び重要事項説明書の読み合わせを行い、十分な説明を行っている。状況を踏まえ参加者は少人数にてお願いしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日頃より声掛けを行い、要望があればお聞きする様に心掛けている。ご家族等からは現況面会は控えさせて頂いており、施設での様子は請求書送付時に写真を同封させて頂いており、要望があれば電話にて承っております。	面会は禁止しているが、毎月担当者から入居者状況を知らせて写真を送付している。利用料持参の家族には、居室の大きなガラス戸越しに表情を見てもらい、声も聞こえると喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月の定例ミーティング時などに意見や提案を聞く機会を設け必要に応じて業務に反映するようにしている。随時提案等があれば聞く体制を心掛けている。	ミーティングや記録の確認で、職員間の話し合いが出来ている。物作りの得意な職員のアイデアで、ペーパーフラワーで藤の花を作り、壁飾りにした。入居者も参加し手指のリハビリになり季節ごと取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務評価は、共通した評価及び日頃の勤務状況などを鑑みて行われている。時間外は時間内に終わるように指導されており、特別な事がない限りは発生しない。また資格取得支援も積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は毎月のミーティング時にテーマに従い実施している。資格のない職員には資格取得も積極的に行われており、そのための支援も積極的に行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流は行われているが、同業者との交流はコロナの影響もあり実施されていない。	近くの特養施設の役員と親交があり、コロナ禍の落ち着いた状況で交流を考えている。法人内の3事業所の職員交流で、合同夏祭りを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には、本人に困っている事や要望などを十分確認し本人が安心して生活が送れるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階では、家族が困っている事や要望などを十分確認し家族が安心して施設に預けて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族によって必要な支援は違う為、本人様及び家族からのお話を十分に聞き取り、必要とされる支援を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者様の細かい仕草などに、目配り、気配りし様子観察を行いながら、声掛け等を通じて利用者様に寄り添う気持ちを大事にする事により暮らしを共にする者同士		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族の要望を十分に理解し、安心して利用者様が生活出来る様な環境作りを作っていく事により本人様と家族の絆が途切れる事無く共に本人様を支え、関係を築いていけるよう努力している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後はこのような支援などは現状時においては出来ていない。	馴染みの床屋が2ヵ月毎に夫婦で来訪し、ほぼ全員がしてもらっている。毎年行っているあやめ園見学ドライブに行った。気分転換になり写真はみんな笑っていて良い思い出になった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出身地や趣味の合った利用者様を隣席にしたり、話好きの利用者様同士のテーブルを一緒にしたりと工夫はしている。また利用者様同士が話すきっかけがもてる様に職員が間に入り取り持つ事も心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においては、相談があれば出来る限りの支援は継続したいと思っておりますが、現状相談を受けるケースはほとんど見られない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活スタイルが違う事を認識し、居室で過ごす方やホールで過ごされている方など多様なニーズがある為、それぞれのスタイルにて生活出来る様支援している。	一人ひとりの過ごし方を尊重し、レクリエーションは声掛けで誘い本人の意思に沿っている。飲み物は、コーヒーや青汁など選んでいる。飲み物は、コーヒーや青汁など選んでいる。ノンアルコールビールは週1回楽しむ方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室やホールなどで趣味を楽しんでいる。他の利用者様に自分の趣味を教える事により交流が出来繋がりが出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのスタイルにて生活出来る様支援する様に努めていくが、居室で過ごす際は声掛け、安否確認を継続する。ホールで過ごす際は心身状態、体調管理の把握に努める。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人との話し合いを中心に、話し合いを行い介護計画を作成しているが、日々の支援を行っている現場職員からの声も十分聞き取りしながら、介護計画作成にも活かしている。	ケアマネジャーが入居者と家族の意向を基に職員から情報収集を行い、3ヵ月毎にモニタリングを行っている。状態低下で前かがみやひざ折れがあり、車椅子使用を計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録やバイタルチェック・食事量・排泄確認表などにより、職員間で情報の共有を図っている。不在の職員がいる場合は職員間の申し送りノートを活用し、毎日のミーティングにて本人様の状態確認を行い介護計画の見直しに努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の変化に柔軟に対応出来る様状態観察を行い、必要に応じた支援とは何かを考えながら介護を行う様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は活かされていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様は毎月定期健診を主治医から受けている。状態に変化があれば主治医に連絡し指示を受けて対応している。主治医との関係は長く、事業所との関係は築けている。	入居時の話し合いで、協力医を主治医として毎月定期受診を受けている。看護師が職員として2人居り、24時間オンコール体制が取れている。看護師は、受診時に同席したり健康チェックや処置を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に変化が見られたり、日々のケア時に気付いた事等があれば直ぐに施設看護師又は主治医の看護師に連絡。主治医からの指示により適切な受診や看護が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院される場合は病院に対しての情報提供をしっかりと行えるよう努めている。入院後は現状面会等は家族も出来ない状態なので、病院又は家族からの連絡を待つ状態である。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時、ご家族等に重度化又は終末期を迎えた場合のあり方について話し合いを行っている。入所中希望内容に変化があれば、再度お話しをして頂くように話している。	入居時に「終末期の看取り介護等についての意向確認書」で説明している。入居者の状態変化や家族の要望に応じている。主治医協力の下で看護師の対応で、出来るだけ、いつものように皆と一緒に過ごせるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には施設看護師又は、主治医への連絡を行う様緊急時の連絡網を表示している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制などを表にして作成。職員全員に配布済み。避難訓練時に実際に連絡網による連絡訓練も実施している。地域との協力体制は築けていない。	災害対策のマニュアルがあり、避難訓練は、夜間の火災想定を含めて年2回行った。非常食の備蓄は3日分確保し、交換と補充をしている。地域の協力体制がないことから、区長の協力を図りたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要以上に大きな声で話し掛けたり自尊心を傷つける様な声掛けはしない様十分気を付けているが、職員同士もお互い注意している。全室個室でありプライバシー保護にもなっている。	名前は「さん」付けで呼び、居室に入る時はノックと声掛けをしている。職員は尊厳を学び、入居者に「否定しない事」「いやな思いをさせない事」に気を付けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け等により思いや希望などを確認する様にしている。例えば聞きたい音楽やレク活動にて行いたい事等いくつかの中から選んでもらえる様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人が出来る限り思い思いの日常生活が送れる様心掛けている。本人のペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日が清潔な服装で過ごせる様職員一同気を付け、希望する服装があれば希望に沿えるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好み栄養面も考慮しながら食事メニューを作成しています。食事は施設生活では楽しみの一つなので、食事担当者は心を込めて作っています。片付けの際は利用者様にお盆拭きをお願いしています。	職員がメニュー作成と調理を行っている。入居者の好みに合わせている。恵方巻きには、海苔の代わりに、薄焼き卵巻にした。栄養バランス等、食事について専門指導や助言を受けていない。	食事について、栄養士や保健師等に年2回以上相談することが求められているのでお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいない為、カロリー計算は出来ないが栄養バランスを考慮しながら食事を作っている。食事量や水分量は毎食記録を行い必要量が確保出来る様支援している。また、食事形態も考慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、利用者様の状態に合わせて見守りや介助にて行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助は定期的な声掛けや様子観察などによりトイレ誘導を実施している。利用者様の状態がやむを得ない場合以外はオムツの利用はしていない。	「オムツを使わない」と「寝たきりにさせない」を目指している。リハパンにパッド使用で定期的にトイレ誘導をしている。様子がソワソワした時等にトイレ案内が大切な支援になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表の記録により排便状況を確認している。また状況に応じては主治医に報告、相談し指示を受けて対応する事もある。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者様の体調を確認しながら入浴を実施しているが、個々の希望に応じた入浴を実施している。夜間の入浴希望は出ていない。	週2回を基本に入浴している。バイタルによりシャワー浴に変更もある。着替え時は2人介助もあり、プライバシー配慮に戸を閉めて、1人ずつゆっくり入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活習慣を尊重するように心掛けている。居室にてテレビを観たい利用者様はそのように過ごされている。冷暖房も完備され良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から処方された薬は、職員にて管理し服薬もれがない様に服薬に携わった職員が服薬チェックリストに記入している。症状の変化にも十分に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビ鑑賞・DVD鑑賞・IQパズル・洗濯畳みや話す事が好きな利用者様それぞれ好きなように過ごせるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現況を踏まえ、家族などの外出は原則お断りしている(面会も含めて)。施設での外出も同様に現在は行われていない。	日常的な外出は出来ないのですが、ホームの庭に花を植えたり、畑作りでキュウリや枝豆を育てた。長距離歩行が困難な方も車椅子を軽トラックに積んで、ドライブで花見やあやめ園、はす祭に行き楽しめた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族管理としており、利用者様は持っていない。現状利用者様と買い物に行く事も出来ない為必要な物品は施設にて代行購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で利用者様との会話を希望する場合には電話で話しをして頂いている。手紙を頂く利用者様には返事が掛ける様支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設自体が大きく作られており、ホールや居室、廊下、トイレなども他のGHよりは広く使いやすい様に作られている。窓も広く施設内からも季節を感じられ居心地は良いと思われる。	ホールは採光用の2枚ガラスの天窓が付いていて明るく広いところで、ゆったり過ごしている。入居者手作りの花や紅葉の壁飾りがある。ホールではテレビを見たり、リズム体操や風船バレーを楽しんでいる。出身地の近い方はテーブルで隣の席にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味の合った利用者様同士隣席にしたり、話好きの利用者様同士を同じテーブルにしたりと工夫はしている。利用者様同士が会話するきっかけが持てる様ケアに努めている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では自宅等で使用していた物を自由に置く事が出来テレビなども設置出来るので自宅で過ごしている様な居心地の良さを感じられる様工夫している。	入居時にコップや茶碗、衣類など日常使用していた物を持って来てもらっている。テレビや洋服ダンスなど馴染んだ家具等を持ち込んでおり、自宅と同じように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では手すりなどが設置され、自立歩行出来る利用者様に役立っている。手引き歩行には職員が付き添い安全に歩行出来る様自立支援している。窓から外の風景も見れて季節を感じられる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300281		
法人名	有限会社 いずみの里		
事業所名	グループホームなでしこ	ユニット名	B棟
所在地	宮城県栗原市一迫真坂字町東56		
自己評価作成日	令和 4年 1月 19日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 3月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に安心・安全に生活して頂ける様に日頃より声掛けや見守りを心掛けている。施設内も広くゆっくり過ごして頂ける様に設計されており、全室個室になっているので自宅同様に落ち着いて過ごせる様に工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建て2ユニットの「グループホームなでしこ」は、栗原市の中央部一迫に在り田園地帯にコンビニやドラッグストア等の一角に在る。職員は毎朝7項目のホーム理念を唱和し、配慮と思いやりのあるケアを目指し、優しい笑顔のある支援を心がけている。入居者全員のかかりつけ医の医院が隣接して、毎月の来訪健診や緊急時対応もあり、家族から安心の声がある。居室や廊下が広く車イスでもゆったり過ごしている。前回に「次のステップに向けて期待したい内容」の2項目についての取り組みはなかった。コロナ禍の今は、居室の窓越しに入居者の表情を見ながら家族は、話しかけ声も聞いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームなでしこ)「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念を作成職員全員が見える所に貼り、毎日期の申し送り終了後に全員にて唱和を行っている。また、全員に理念を記載したネームプレートを配布し常に理念の確認が行えるように実践している。	ホーム理念の7項目を掲げて、毎日職員で唱和を行っている。入居者に優しい笑顔でゆっくり話しかけることで安心感を持ってもらえるようにしている。振り返りは年始の1月の会議時に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、新型コロナの影響で参加出来ない状態が続いている。	オレンジカフェは以前のように同法人デイサービスと共同開催予定であるが、コロナの感染状況を見ている。地震時には避難場所として地域の方を受け入れる準備もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループ全体でオレンジカフェの開催、お茶っこ会の参加の計画はあったが、新型コロナの影響で実施出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	R3・8月はコロナの影響があり、案内状を送付しましたが中止となり参加者の方々に書面を送付させて頂きました。R3・4月・11月、R4・1月は入居者状況や活動内容などを行いサービスに活かしております。	包括支援センター職員や区長、町内会会長、家族等をメンバーとしている。会議開催はないが書面でホームの様子や活動状況を報告したが、4回ほどにとどまった。	県のガイドラインの求めに応じて、運営推進会議のメンバーに働きかけ、年6回以上開催し、サービス向上に活かさせていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修に必要な資料をを頂いたり、必要な情報を提供して頂いたりしているが、更に連絡を密に取りながら協力関係を築けるよう取り組んでいきます。	市に運営推進会議について、メンバーの交代や書面状況提供等について相談した。包括支援センターの研修が少なくなり、内部研修を中心に行っているが相談等は、し易い状況にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング時に身体拘束について研修を行っている。3か月に1回の割合で「身体拘束に関する適正化委員会」を委員中心に開催し内容を各職員も閲覧・押印し確認している。	指針に基づいて新規入職者等の研修を毎月実施している。身体拘束未然防止に向けて、介護事例の「車椅子をテーブルに押し付けけない」や「動かないで」の声掛け等をしていない「ミトン使用しない」等を確認している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング時に虐待について研修を行っている。虐待が実際に行われていない事を確認している。	虐待防止の研修を毎月行っている。急な立ち上がりや車椅子での急な移動は、大きな怪我に繋がるので特に注意している。入浴時に身体の状態(内出血等)を見逃さないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、定例ミーティング時に研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご契約者や同席のご家族に契約書及び重要事項説明書の読み合わせを行い、十分な説明を行っている。状況を踏まえ参加者は少人数にてお願いしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日頃より声掛けを行い、要望があればお聞きする様に心掛けている。ご家族等からは現況面会は控えさせて頂いており、施設での様子は請求書送付時に写真を同封させて頂いており、要望があれば電話にて承っております。	面会は禁止しているが、毎月担当者から入居者状況を知らせて写真を送付している。利用料持参の家族には、居室の大きなガラス戸越しに表情を見てもらい、声も聞こえると喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月の定例ミーティング時などに意見や提案を聞く機会を設け必要に応じて業務に反映するようにしている。随時提案等があれば聞く体制を心掛けている。	ミーティングや記録の確認で、職員間の話し合いが出来ている。物作りの得意な職員のアイデアで、ペーパーフラワーで藤の花を作り、壁飾りにした。入居者も参加し手指のリハビリになり季節ごと取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務評価は、共通した評価及び日頃の勤務状況などを鑑みて行われている。時間外は時間内に終わるように指導されており、特別な事がない限りは発生しない。また資格取得支援も積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は毎月のミーティング時にテーマに従い実施している。資格のない職員には資格取得も積極的に行われており、そのための支援も積極的に行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流は行われているが、同業者との交流はコロナの影響もあり実施されていない。	近くの特養施設の役員と親交があり、コロナ禍の落ち着いた状況で交流を考えている。法人内の3事業所の職員交流で、合同夏祭りを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には、本人に困っている事や要望などを十分確認し本人が安心して生活が送れるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階では、家族が困っている事や要望などを十分確認し家族が安心して施設に預けて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族によって必要な支援は違う為、本人様及び家族からのお話を十分に聞き取り、必要とされる支援を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者様の細かい仕草などに、目配り、気配りし様子観察を行いながら、声掛け等を通じて利用者様に寄り添う気持ちを大事にする事により暮らしを共にする者同士		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族の要望を十分に理解し、安心して利用者様が生活出来る様な環境作りを作っていく事により本人様と家族の絆が途切れる事無く共に本人様を支え、関係を築いていけるよう努力している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後はこのような支援などは現状時においては出来ていない。	馴染みの床屋が2ヵ月毎に夫婦で来訪し、ほぼ全員がしてもらっている。毎年行っているあやめ園見学ドライブに行った。気分転換になり写真はみんな笑っていて良い思い出になった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出身地や趣味の合った利用者様を隣席にしたり、話好きの利用者様同士のテーブルを一緒にしたりと工夫はしている。また利用者様同士が話すきっかけがもてる様に職員が間に入り取り持つ事も心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においては、相談があれば出来る限りの支援は継続したいと思っておりますが、現状相談を受けるケースはほとんど見られない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活スタイルが違う事を認識し、居室で過ごす方やホールで過ごされている方など多様なニーズがある為、それぞれのスタイルにて生活出来る様支援している。	一人ひとりの過ごし方を尊重し、レクリエーションは声掛けで誘い本人の意思に沿っている。飲み物は、コーヒーや青汁など選んでいる。飲み物は、コーヒーや青汁など選んでいる。ノンアルコールビールは週1回楽しむ方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室やホールなどで趣味を楽しんでいる。他の利用者様に自分の趣味を教える事により交流が出来繋がりが出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのスタイルにて生活出来る様支援する様に努めていくが、居室で過ごす際は声掛け、安否確認を継続する。ホールで過ごす際は心身状態、体調管理の把握に努める。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人との話し合いを中心に、話し合いを行い介護計画を作成しているが、日々の支援を行っている現場職員からの声も十分聞き取りしながら、介護計画作成にも活かしている。	ケアマネジャーが入居者と家族の意向を基に職員から情報収集を行い、3ヵ月毎にモニタリングを行っている。状態低下で前かがみやひざ折れがあり、車椅子使用を計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録やバイタルチェック・食事量・排泄確認表などにより、職員間で情報の共有を図っている。不在の職員がいる場合は職員間の申し送りノートを活用し、毎日のミーティングにて本人様の状態確認を行い介護計画の見直しに努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の変化に柔軟に対応出来る様状態観察を行い、必要に応じた支援とは何かを考えながら介護を行う様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は活かされていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様は毎月定期健診を主治医から受けている。状態に変化があれば主治医に連絡し指示を受けて対応している。主治医との関係は長く、事業所との関係は築けている。	入居時の話し合いで、協力医を主治医として毎月定期受診を受けている。看護師が職員として2人居り、24時間オンコール体制が取れている。看護師は、受診時に同席したり健康チェックや処置を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に変化が見られたり、日々のケア時に気付いた事等があれば直ぐに施設看護師又は主治医の看護師に連絡。主治医からの指示により適切な受診や看護が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院される場合は病院に対しての情報提供をしっかりと行えるよう努めている。入院後は現状面会等は家族も出来ない状態なので、病院又は家族からの連絡を待つ状態である。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時、ご家族等に重度化又は終末期を迎えた場合のあり方について話し合いを行っている。入所中希望内容に変化があれば、再度お話しをして頂くように話している。	入居時に「終末期の看取り介護等についての意向確認書」で説明している。入居者の状態変化や家族の要望に応じている。主治医協力の下で看護師の対応で、出来るだけ、いつものように皆と一緒に過ごせるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には施設看護師又は、主治医への連絡を行う様緊急時の連絡網を表示している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制などを表にして作成。職員全員に配布済み。避難訓練時に実際に連絡網による連絡訓練も実施している。地域との協力体制は築けていない。	災害対策のマニュアルがあり、避難訓練は、夜間の火災想定を含めて年2回行った。非常食の備蓄は3日分確保し、交換と補充をしている。地域の協力体制がないことから、区長の協力を図りたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要以上に大きな声で話し掛けたり自尊心を傷つける様な声掛けはしない様十分気を付けているが、職員同士もお互い注意している。全室個室でありプライバシー保護にもなっている。	名前は「さん」付けで呼び、居室に入る時はノックと声掛けをしている。職員は尊厳を学び、入居者に「否定しない事」「いやな思いをさせない事」に気を付けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け等により思いや希望などを確認する様にしている。例えば聞きたい音楽やレク活動にて行いたい事等いくつかの中から選んでもらえる様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人が出来る限り思い思いの日常生活が送れる様心掛けている。本人のペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日が清潔な服装で過ごせる様職員一同気を付け、希望する服装があれば希望に沿えるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好み栄養面も考慮しながら食事メニューを作成しています。食事は施設生活では楽しみの一つなので、食事担当者は心を込めて作っています。片付けの際は利用者様にお盆拭きをお願いしています。	職員がメニュー作成と調理を行っている。入居者の好みに合わせている。恵方巻きには、海苔の代わりに、薄焼き卵巻にした。栄養バランス等、食事について専門指導や助言を受けていない。	食事について、栄養士や保健師等に年2回以上相談することが求められているのでお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいない為、カロリー計算は出来ないが栄養バランスを考慮しながら食事を作っている。食事量や水分量は毎食記録を行い必要量が確保出来る様支援している。また、食事形態も考慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、利用者様の状態に合わせて見守りや介助にて行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助は定期的な声掛けや様子観察などによりトイレ誘導を実施している。利用者様の状態がやむを得ない場合以外はオムツの利用はしていない。	「オムツを使わない」と「寝たきりにさせない」を目指している。リハパンにパッド使用で定期的にトイレ誘導をしている。様子がソワソワした時等にトイレ案内が大切な支援になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表の記録により排便状況を確認している。また状況に応じては主治医に報告、相談し指示を受けて対応する事もある。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の体調を確認しながら入浴を実施しているが、個々の希望に応じた入浴を実施している。夜間の入浴希望は出ていない。	週2回を基本に入浴している。バイタルによりシャワー浴に変更もある。着替え時は2人介助もあり、プライバシー配慮に戸を閉めて、1人ずつゆっくり入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活習慣を尊重するように心掛けている。居室にてテレビを観たい利用者様はそのように過ごされている。冷暖房も完備され良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から処方された薬は、職員にて管理し服薬もれがない様に服薬に携わった職員が服薬チェックリストに記入している。症状の変化にも十分に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビ鑑賞・DVD鑑賞・IQパズル・洗濯畳みや話す事が好きな利用者様それぞれ好きなように過ごせるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現況を踏まえ、家族などの外出は原則お断りしている(面会も含めて)。施設での外出も同様に現在は行われていない。	日常的な外出は出来ないのですが、ホームの庭に花を植えたり、畑作りでキュウリや枝豆を育てた。長距離歩行が困難な方も車椅子を軽トラックに積んで、ドライブで花見やあやめ園、はす祭に行き楽しめた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族管理としており、利用者様は持っていない。現状利用者様と買い物に行く事も出来ない為必要な物品は施設にて代行購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で利用者様との会話を希望する場合には電話で話しをして頂いている。手紙を頂く利用者様には返事が掛ける様支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設自体が大きく作られており、ホールや居室、廊下、トイレなども他のGHよりは広く使いやすい様に作られている。窓も広く施設内からも季節を感じられ居心地は良いと思われる。	ホールは採光用の2枚ガラスの天窗が付いていて明るく広いところで、ゆったり過ごしている。入居者手作りの花や紅葉の壁飾りがある。ホールではテレビを見たり、リズム体操や風船パレーを楽しんでいる。出身地の近い方はテーブルで隣の席にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味の合った利用者様同士隣席にしたり、話好きの利用者様同士を同じテーブルにしたりと工夫はしている。利用者様同士が会話するきっかけが持てる様ケアに努めている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では自宅等で使用していた物を自由に置く事が出来テレビなども設置出来るので自宅で過ごしている様な居心地の良さを感じられる様工夫している。	入居時にコップや茶碗、衣類など日常使用していた物を持って来てもらっている。テレビや洋服ダンスなど馴染んだ家具等を持ち込んでおり、自宅と同じように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では手すりなどが設置され、自立歩行出来る利用者様に役立っている。手引き歩行には職員が付き添い安全に歩行出来る様自立支援している。窓から外の風景も見れて季節を感じられる。		